

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

ジュニアチューターを経験して

阿部 淳*

2012年夏、気軽な気持ちで「小児感染症の勉強をしよう!」と考えて参加した本セミナーでしたが、セミナー前からのメールやウェブカンファレンスを通しての事前準備、セミナー中の夜遅くまでのグループワーク、セミナー後の学会誌投稿のためのディスカッションと、本当に多くのことを学ばせてもらい、また、志を同じくする多くの仲間たちとの交流をもつことができ、自分にとって大きな転換点となったセミナーでした。魅力に引き込まれ2013年も受講生として参加し、さらに多くの充実感を得たセミナーでしたが、そんなセミナーに今度は「ジュニアチューター」として参加する機会をいただきました。今度は自分が受講生に魅力を伝える番だ!と気合いが入った状態で参加させていただきました。

まずは、グループワークのテーマを決めるところからスタートしました。若い先生たちでも経験している臨床に近い内容で、日々当たり前に行っていることを「見直す」ことができれば…と思い、「尿路感染症の急性期後」に決めました。その後、グループのメンバーが決定、早速メールを使った事前準備を始めようとしたのですが…どうも私の気合いが入りすぎていたようで、当グループでの事前準備は比較的ゆっくりしたスタートとなりました。

た。セミナーまでの日が残り少なくなってきた頃に、ゆっくりしたペースに焦りがありましたが、セミナー2週間前にネット上での顔を出してのウェブカンファレンスを行ってからは、お互いの意思疎通もスムーズとなり、(笑顔を交えつつの)議論も盛り上がり、無事セミナーでの発表、学会誌への投稿原稿の仕上げ、までもっていくことができました。

今回のグループワークは、自分が不慣れでジュニアチューターという立ち位置の難しさに悩むこともありましたが、チューターの田中先生の手厚いバックアップと、グループリーダーの手束先生の名采配、そしてグループメンバー全員の若いエネルギーに助けられ、形あるものが残せたのではないかと思います。そして、本セミナーでの一番の目的である「同志とのつながりを作る」手助けができたのがよかったな、と思います。

本セミナーは来年度以降も続くとのことで、今年のセミナーに参加した先生方のなかで、一緒に盛り上げていこうという先生が、(私のように)また参加してくれることに期待したいと思います。機会があれば、また参加したいです。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

* * *

* 唐津赤十字病院小児科